

社会福祉士・看護師・管理栄養士・理学療法士
などの専門職がサポートします

日時 毎月第2・第4金曜日13時30分～16時30分

場所 友愛記念病院

費用 無料(誰でも参加できます)

【問】 がん相談支援センターTEL97-3000

友愛記念病院

がん患者家族 デイケア・サロン「ほんわか」



▲サポートチームの皆さん

国が指定する地域がん診療連携拠点病院として県内にある8施設のうちである友愛記念病院。平成29年からがん患者家族デイケアサロン「ほんわか」を定期的に開催しています。そこでは、社会福祉士・看護師・管理栄養士・理学療法士などによる多くの専門職がサポートチームを形成し、がん予防から終末期における相談を受けています。看護師長としてサロン運営に携わる秋葉さんは「サロンに参加して悩みを相談したり、リフレッシュ行事を体験することで、少しでも前向きな気持ちになっていただけることを願っています。ぜひ多くの人に参加していただきたい」と話します。

がん患者・家族の「心のケア」をサポート



友愛記念病院
緩和ケア認定看護師
松下久美子さん

がん患者さんと家族にとつてのより良い生活を共に考え、体だけでなく、心の辛さにも寄り添い和らげることを専門とする緩和ケア認定看護師の松下さん。緩和ケアチームの活動や病棟でのケアの他にも、サロンでは患者・家族の思いや価値観を大切にしながら、その人の「希望」をできるだけ支え、サロン参加後に笑顔で日常生活に戻っていけるよう「心のケア」をしています。がんの診断・治療の時だけでなく、治療後や再発時であっても、「サロンで同じ体験をしている人たちと出会い、悩みや不安など語り合える場があることは、とても心強いことだと思うので、ぜひたくさんの人に参加していただけたらと思っています」と話します。

参加者の声



がんという同じ病気を体験した人たちが、自分だけで悩みを抱えず話し励まし合い、他の人には言いづらいことも話せる、とても素晴らしい場所です。

専門職との勉強会もありますが、その話はとても分かりやすく、勉強になりました。

60代女性

がんになった時にサロンに参加して、精神的にすごく救われました。おかげ様で今では、がんを克服することができました。

その時の恩返しをしようとピアサポーターの資格を取得し、現在はサロンでがん患者の相談相手として活動しています。

50代女性

3度がんになっても諦めない

～毎年の検診に救われた私の命～

坂田敬一さん(上砂井・92歳)



ここまでかと諦めた命

坂田さんが初めてがんになったのは、53歳の時の直腸がんでした。すでにステージIVまで進行しており、自分の命はここまでかと思つたそうです。しかし、奇跡的に完治に向かうことができました。

その時の医師に教えられたのは、定期的ながん検診を受け、早期発見しなければいけないということでした。その後、58歳の時にスキルス性胃がん、72歳の時に大腸がんになりましたが、毎年受けていたがん検診のおかげで早期発見ができ、がんに打ち克つことができました。

自身の体験が妻の支えに

坂田さんの看病をしていた奥さんも、56歳の時に体調不良になり、病院で検査をしたところ、結腸がんが見つかりました。病状がかなり進行しており、ひどく落ち込んだそうです。しかし、坂田さんが前向きに闘病していた姿を思い出し、負けず頑張らなくてはいけないと思えたことが精神的な支えになったと言います。

坂田さん夫婦が今、口をそろえて言うことは、何よりも病の種を初期のうちに見つけるために、毎年がん検診を受けることでした。そして、がんになった時は「必ず治る」と信じて治療に専念することが非常に大切だと話します。

医師が常に参加している国内でも極めて珍しい がん患者・家族の会

日時 毎月第1・第3土曜日10時～12時
費用 無料(誰でも参加できます)
場所 古河福祉の森診療所
【問】 古河福祉の森診療所TEL48-6521

古河福祉の森診療所 がん患者・家族の会 サルビアの会



「医師がいなければ、がん患者や家族の悩み・苦しみは解決できない。信頼関係を築き心のケアをすることが大切」という思いでサルビアの会を主催している古河福祉の森診療所の赤荻榮一医師。

平成14年の設立から毎月2回必ず出席し、患者や家族の声に耳を傾けてきました。その原動力は、自身が筑波大学の助教授だった時、がん患者や家族が治療の悩み・苦しみを相談できる相手がいない姿を目にすることが多く、正確な知識の共有や心のケアをする場を提供しなければならぬという強い思いでした。「がんの苦しみを話し共感してもらい、体験者の心持ちを聞くだけでも救われるので、遠慮せずに参加してほしい」と赤荻医師は話します。